(別紙2-1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年1月21日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401277		
法人名	有限会社 あっふる		
事業所名	グループホーム ありあけ		
所在地	〒859-1413 長崎県島原市有明町大三東丙 470 番地 1		
自己評価作成日	平成22年1月12日	評価結果市町受理日	平成22年3月5日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=4271401277&SCD=320
--------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 医療・福祉ネットワークせいわ
所在地	〒840-0015 佐賀県佐賀市木原二丁目6番5号
訪問調査日	平成22年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1 ユニットのグループホームで利用者とスタッフがのびのびとした環境とお互い向き合った生活を営み、安心して笑顔が自慢の施設です。
スタッフ一人ひとり、介護に向かう情熱は熱いものがあり、質の向上を目指し日々研修会の参加にも努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームは、島原鉄道大三東駅前の閑静な住宅街に位置し、宅老所・デイサービスと同一敷地内で運営されています。敷地内には菜園が設けられ、収穫は利用者の楽しみの一つになっています。施設内は、清潔が保たれ季節の花や利用者の制作物が飾られており、落ち着いた時間が流れています。そのような環境の中で、職員はホームの理念である「笑顔」というキーワードを常に心に留め置き、利用者の支援に当たられています。
代表者及び管理者は、職員の能力向上を目標に掲げ、外部研修会への参加や資格取得を推奨されており、職員もそれを目指されています。管理者は、質の向上に意欲的で、他のホームの見学なども積極的に行われています。
利用者は、代表者や管理者及び職員の介護に対する積極的な姿勢と笑顔に包まれ、落ち着いた表情で過ごされています。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	その人らしく、笑顔で安心した生活環境づくりを提供出来る様に、日々取り組んでいます。	「その人らしく、毎日を笑顔で安心して過ごしましょう。」という職員間で話し合って作られた理念は、施設内の随所に掲げられ、常に職員間で意識されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域自治会や町内会の会員として参加し、町内の行事や祭りなど参加及び訪問していただける体制づくりに努めていますが定着には至らない部分があるようです。	町内会に参加し、ホームの敬老会に近隣の高齢者を招かれたり、中学生の体験学習を受け入れられたりしています。その他、散歩の際の交流や野菜を頂かれるなど、日常的な交流も行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	“認知症”の理解として、オレンジリングなどPRできる場をつくり、地域の人達と共に活動し『認知症でも大丈夫』といった取組みを行っております。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は、行われています。サービスの向上に結びつかなかったこともある。	運営推進会議は昨年1年間で6回開催されており、自治会長や市の担当者などが参加されていますが、ホームの質の向上についての話し合いや参加メンバーには課題が残ります。	参加メンバーに利用者や利用者の家族及び当該サービスについて知見を有する人の参加が求められます。メンバーの充実と質の向上に向けた活発な意見交換を期待します。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者の方とは、協力を頂ける体制ですがケアサービスなど介護知識が少々足りないように感じます。	利用者の介護認定更新や医療費関係の手続の際など、月に数回市役所を訪問し、情報交換に努められています。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束及び虐待防止については、積極的に研修等に参加しそこで学んだ事などスタッフ全員に伝え、心に寄り添ったケア作りを目指しています。</p>	<p>身体拘束に関する外部研修を積極的に受講し、伝達研修やホーム内での検討会が行われています。利用者の外出についても、併設のサービスの職員と連携し、見守りに努められています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束及び虐待防止については、積極的に研修等に参加しそこで学んだ事などスタッフ全員に伝え、研修に参加したスタッフだけではなく、全員が問題意識をもち、心に寄り添ったケア作りを目指しています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>スタッフも自立支援に向けた取り組みを行い成年後見制度などについては、管理者研修に参加したり研修報告書で学んだりしてスタッフも勉強し活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者及び家族の意見、不安や疑問などは、その時に限らず、疑問や不安等々が発生時に対応できるように努めています。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見など尋ねたり、外部内部問わず表わす機会を設けていますが反映には、至っていない感があります。</p>	<p>面会時を中心に意見の聴取に努められています。常に意見交換がスムーズに出来るよう、お茶を出したりしながら、話し易い雰囲気作りに努められています。得られた意見については、日誌に記録し会議等で話し合う仕組みもあります。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議などで、スタッフひとりひとりの意見を聞き入れられる体制をとり、提案や改善など活かせる様に努めている。</p>	<p>経営者、管理者及び職員のコミュニケーションは良好で、日常的に意見交換が行われています。また、会議においては、利用者に関すること、行事や研修、勤務体制に関するなどが話し合われています。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>できるだけスタッフの希望は、聞き入れられ介護の資格などにも協力して貰っています。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的にある実践者研修をはじめグループホームケア研究会など参加しています。又参加できなかったスタッフにも会議時間に研修の概要は伝えていきます。常に『質の向上』考え取り組んでいます。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>地域の施設や県内施設の訪問など交流や研修会などでも、サービスの質向上について話し合を始めました。本格的な取り組みは、これからです。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サマリーだけではなく、利用者本位のアセスメントなど活かしながら、困り事や不安と感ずる部分等に配慮しながらお互いの人間関係作りを取り組んでいる。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の要望には、出来るだけ応えられる体制を取っています。また定期的に家族に連絡したり、面会していただけるような関係を築けるように心がけています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>必要な支援、また継続して行う支援などスタッフ全員が理解し、チームケアとして対応できるように努めています。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者中心のケアを目的としていますが、利用者もスタッフも共同作業に心がけるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフ全員、利用者の希望や望みなど家族の方にも伝え共同で支えていく関係作りを努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人及び家族などにも十分尋ねたりして、利用者の生活歴、馴染みの関係には配慮し気を配っている。	利用者から得られた情報は、日誌に記録され活用されています。馴染みの美容室の利用や馴染みの人への電話の支援なども行われています。女学校時代の利用者の知人が尋ねて来られたケースもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりに気配り、目配り、心配りを行っております。利用者同士の関わりも十分配慮しスタッフも関わりが必要なところ、必要ではないところを把握し自立支援を目指しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の希望や利用者の思いに相談や支援できる体制をとり、契約が終了してもその関係が継続できるように努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向は、把握していますが多々困惑する部分もあります。会議などで話し合い、できるだけ本人の意向に添えるよう努めています。	意向を表すことが困難な利用者には、時間をかけて汲み取るよう心掛けられています。把握できた意向については、職員や家族と相談し意向に沿うよう努められています。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活環境も、日々変化していきます。利用者の心に添える生活環境を求め会議などでも話し合い把握に努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活環境も、日々変化していきます。利用者の心に添える生活環境を求め会議などでも話し合い把握に努めています。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者及び家族の意見、目的などできるだけ聞きまた尋ねたりして、希望の持てる生活環境作りが出来るように介護計画も進めています。	日頃のかかわりの中で得られた利用者や家族の要望などは、日誌に記録され介護計画に反映されています。また、介護計画の立案は会議の中で行われています。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員が介護日誌に記入したり、連絡ノートの確認、申し送りなど行い気づきや健康面でのチェックは日々見落とす事のないよう努めている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在支援を行っている中で、家族やそれに関わるすべての状況に変化が生じても対応ができ、利用者不安や心配など与えないよう取り組んでいます。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の生活歴など配慮し、農作業を行えるように、施設の裏に農園もあり季節の野菜作りをして頂いています。また趣味での園芸も出来るだけ行えるよう努めています。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>受診は、利用者家族の意見などに配慮し希望の医療先になっており、その時の健康状態を把握した上で家族の方と相談し適切な医療が受けられるよう努めています。</p>	<p>利用者や家族の希望に応じ利用前からのかかりつけ医が選択され、通院介助などの支援が行われています。透析が必要な利用者の定期的な通院についても対応されています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>自施設では、専任の看護師がおり、介護職員と連携で利用者の健康管理に日々努めています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>上記にもありますが、専属の看護師がおり入院医療機関をはじめ関係の医療機関とは、受診などの際に情報交換に努めています。また介護職員もその連携の医療機関に対し情報提供を心がけてます。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>連携の取れた受入施設があり、利用者の重度化・終末期に対しても、十分家族に説明し理解を頂いています。また定期的に家族や関係者には、連絡及び報告も行っています。</p>	<p>看取りに関する指針が準備され、入居時に説明が行われています。また、それについての同意も得られており、利用者や家族の様々な思いに対応できるよう配慮されています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当の訓練は、行っていませんがスタッフ全員が利用者の健康管理及び既往歴を理解しており、急変時や事故発生時の対応も会議や日々実践のなかで看護師より学んでいます。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災訓練は、定期的に行い昼夜と想定し利用者の移動方法にも配慮した取組みをしています。スタッフも防災訓練を消防署で本格的に受け、地域との協力体制も確立できるよう努めています。</p>	<p>夜間想定を含めた消防署との訓練の他、消防団との合同訓練も2年に1回程度行われています。また、非常食などの備蓄も行われており様々な災害に対応できるよう努められています。</p>	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳とプライバシーの確保は、私達介護職員の基本ではありませんが、言葉使いに対しては利用者の方に失礼ではないか?などと感じられるところがある。研修など参加し介護職員の質の向上を目指したい。	ご利用者の人格を尊重し、利用者本位を常に心掛けられています。利用者へは優しいトーンで語り掛けられており、丁寧な対応に努められています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定のできる場面作りも、介護職員の基本ですが、まだ確立には至りません。上記の通り質の向上を目指し、各研修に参加し継続の段階です。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定表は、作成していますがその日の健康状態など利用者中心とし、その人らしい生活を基本としながら無理のない取組みを考え実践しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の要望がえられる体制を取っており、美容室など希望があれば日々対応しています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みなどスタッフ側も把握していますが食事の準備や片付けなど利用者の高齢化などもあり、自立と言った部分が少なくなりました。昨年までは、台所にスタッフと一緒に立つ事が少なくなりました。	食事は、食べ残しの状況から、その理由を分析し、改善に努められています。利用者と一緒に収穫した野菜を食べたり、テーブルに花を飾ったり、食事を楽しんで頂く工夫が見受けられます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析の方も利用者におられ食事など、スタッフも気配りを怠らず日々適切な環境維持に努めています。		

42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>義歯の方が多いため衛生面には、スタッフ全員が注意し口腔ケアはもとより、週1度の義歯消毒も確実にを行い、利用者にも言葉掛けを行うことにしています。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>尿意がない利用者もおられるので、取り組みにも注意しています。できる範囲のなかリハパンではなく、下着での生活を心がけるようにスタッフも努力しています。</p>	<p>利用者一人ひとりの排泄リズムに基づいたトイレ誘導など、排泄の自立に向けた支援が行われています。時間帯に応じた尿取りパットの使用など、細かい対応も見受けられます。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>医療面では、座薬や服薬。介護面では、繊維質の多い野菜摂取の工夫など取り組んでいます。排泄記録も適切に記録され予防及び対応も確立されています。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴も毎日可能です。利用者の意見など十分配慮され、現在は半分づつの人数でゆっくり利用して頂いています。</p>	<p>お風呂は毎日利用可能であり、週に3回ずつ入浴されています。利用者と職員の状況で、時間帯は限られていますが、菖蒲湯や柚子湯が提供されるなど、入浴を楽しむための工夫がうかがえます。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>夜勤帯でも、利用者添った生活環境作りの一つとして、休みたい時間、TV観賞の時間は、利用者に合わせていただいています。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>専属の看護師より薬の説明は、スタッフに指導や指示があり健康状態など把握できる体制を取っています。</p>		

48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりに、洗濯物をたたんで頂いたり掃除なども手伝いをお願いしたりしています。利用者の好みで草取りに参加される事もあり気分転換や望みなど常に取り入れるように努めています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>状況に対応しています。季節によっては、外出できないこともあります。が、出来るだけ希望に添えるように努めています。</p>	<p>日常的な散歩や買い物物の支援が行われています。また、ドライブや花見、初詣、初市など季節に応じた外出支援も行われています。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>利用者で違いはありますが、力に応じて所持して頂いています。またお金の大切さを理解して頂ける様そのときに応じた対応を取っています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>電話や手紙など支障がないように心がけていますが、年々電話を掛ける事が少なくなりました。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>特別な工夫はありませんが、利用者の人達が困惑したり不快に感じないように努めています。時々利用者の意見も取り入れられるように努めています。</p>	<p>共用空間には鉢植えや切花などが飾られ、季節を感じることが出来ます。また、ご利用者の作品なども飾られています。カーテンによる光の調整にも配慮されています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の環境作りは、大切な取り組みの1つと考えスタッフ自身も現在工夫に取り組んでいます。</p>		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室工夫は、特別大きな工夫と言ったことはできませんが本人及び家族と相談の上で現状のようにしています。また本人や家族の要望がいつでも聞き入れられるような体制は取れるよう心がけています。	馴染みの家具や飾りなどにより落ち着いて過ごせる空間作りを心掛けてられています。家族の写真や利用者の作品なども飾られており、テレビの持込みなども見受けられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部に大きな工夫はありませんが、利用者本位の視点に立ち、てすりや、表示を大きくしたり滑り止めなどして、安全で安心した生活環境を目指しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
		○	3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない